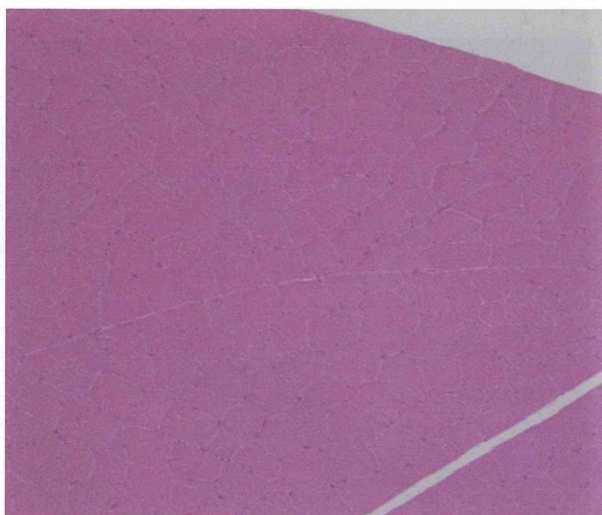


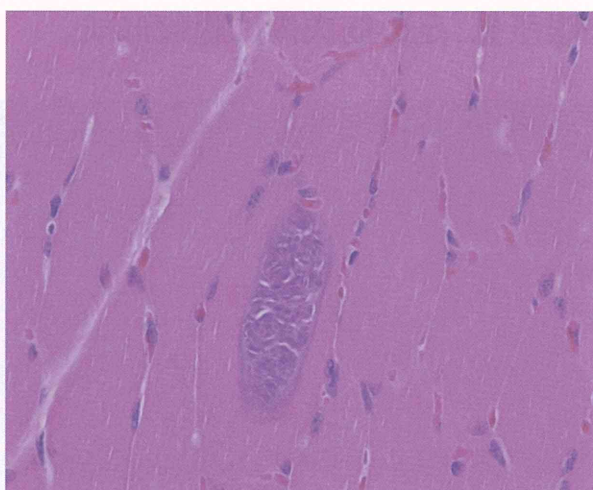
エゾシカ 筋肉



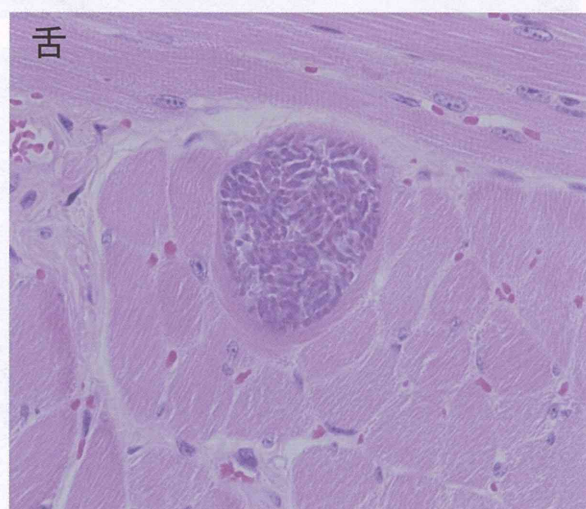
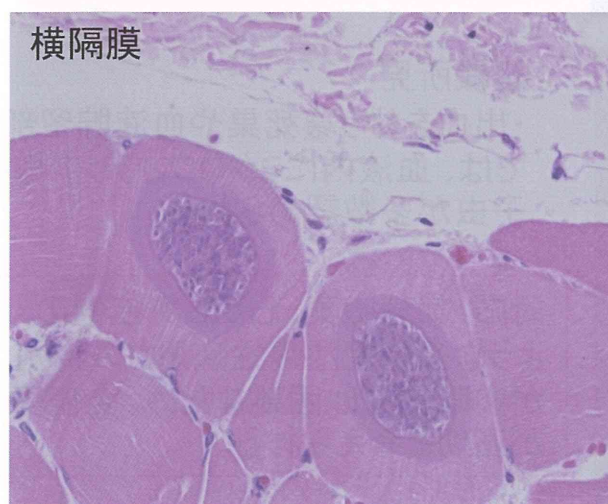
組織所見

・著変なし、ということは非常に稀であり、多くの場合、下記のような寄生虫寄生を伴う。

対応：肉眼所見では住肉包子虫の寄生は判断できないため、食用に供する際には十分に加熱調理するよう心がける。



組織所見：住肉胞子虫が全身筋肉内に多数散見される。



組織所見：横隔膜や舌の筋肉内にも住肉胞子虫が散見される。

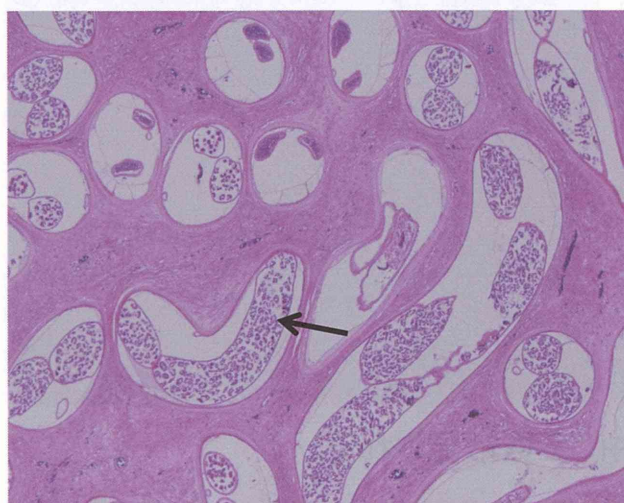
エゾシカ 筋肉内腫瘍



肉眼所見：足の筋肉内に腫瘍形成。

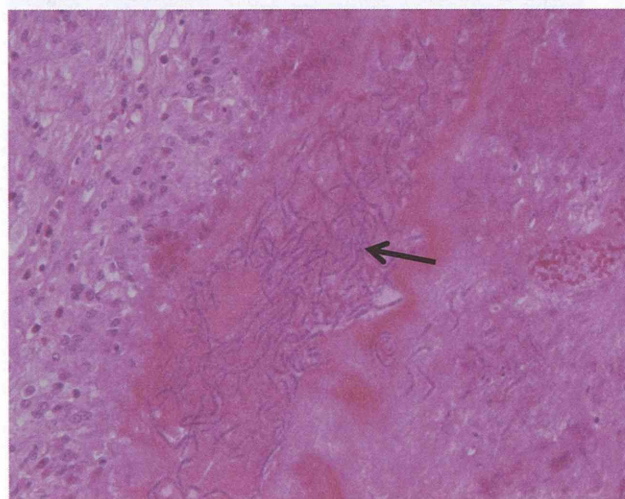


断面：やや硬く、ジャリジャリした感触あり。



組織所見

・糸状虫様の寄生虫が筋層を破壊又は押しよせながら生息し、周囲には好酸球を主として形質細胞やリンパ球も浸潤、線維性結合組織が広範囲に増生。

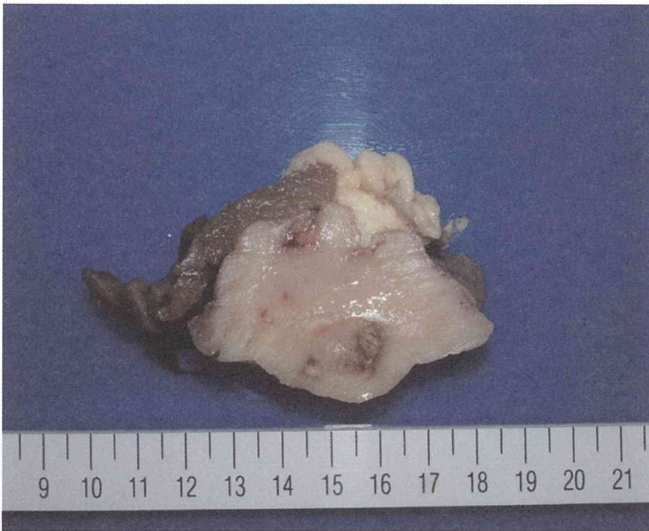


組織所見

・出血を伴う壊死巣や血液貯留部では、血液内にミクロフィラリア様の子虫が多数認められる。

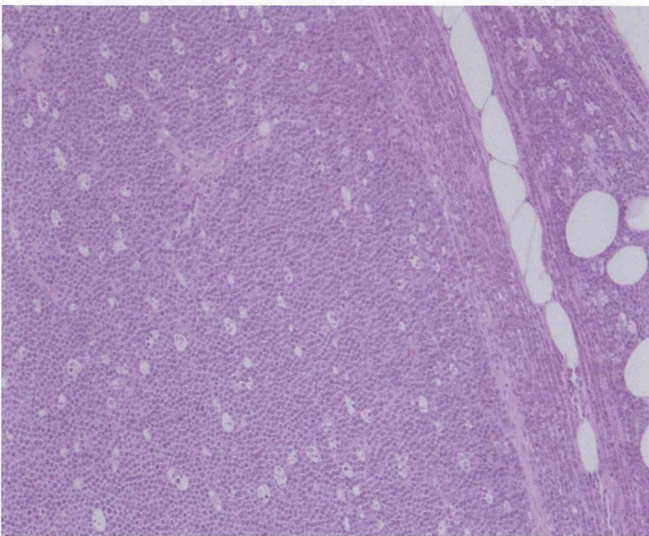
対応：部分廃棄、しかし次症例のような多発性腫瘍性疾患との鑑別が肉眼的には困難なため、全廃棄が適切と考えられる。

エゾシカ 頸部腫瘍



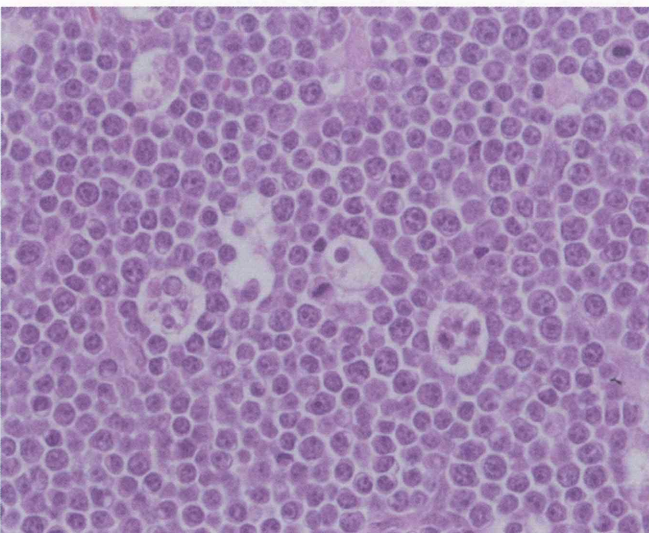
肉眼所見

- ・頸部筋肉内に白色の腫瘍形成。



組織所見

- ・リンパ球様腫瘍細胞が充実性シート状に増生し、既存のリンパ節構造を置換、被膜外にまで浸潤している。



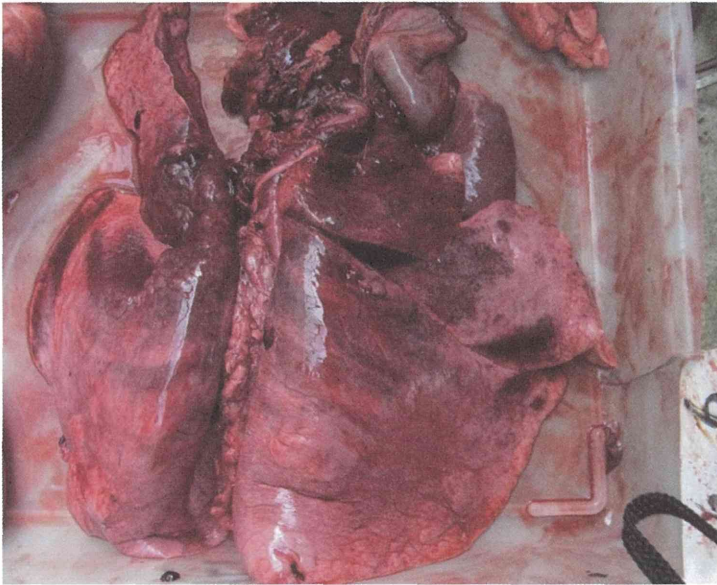
組織所見

- ・円形で中型のリンパ球様腫瘍細胞からなり、核分裂像やスターリースカイ像も散見される。

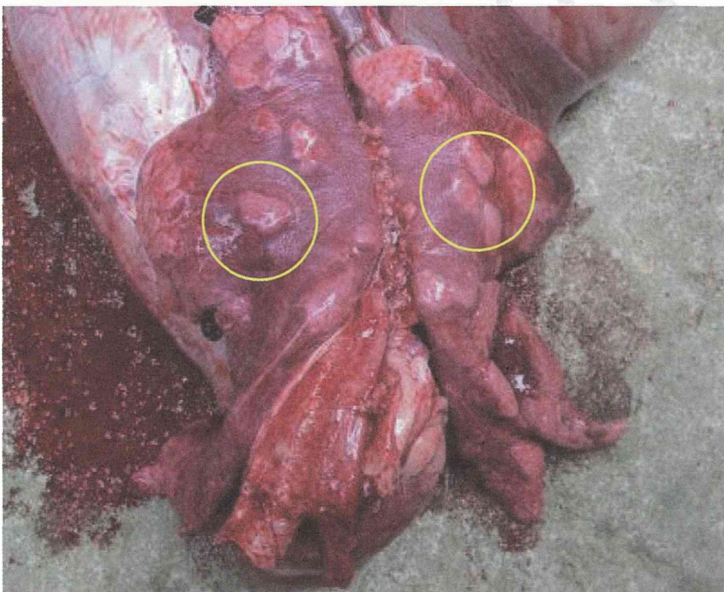
対応：悪性リンパ腫、全身廃棄

シカ

シカ 肺

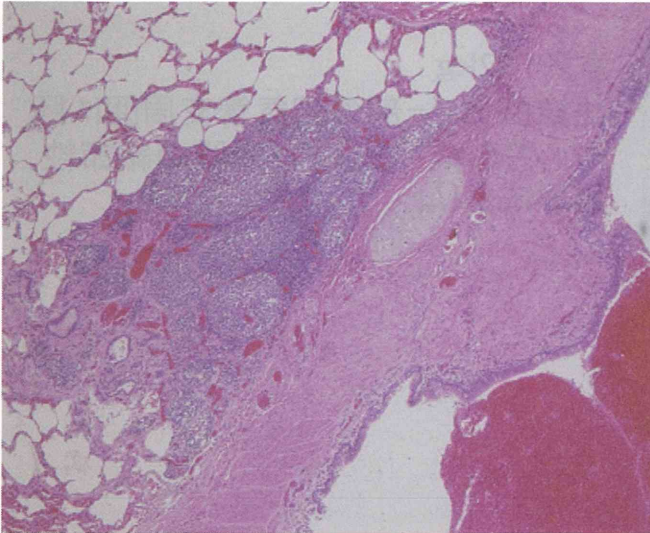


オス、23.5kg
肉眼所見：著変なし。



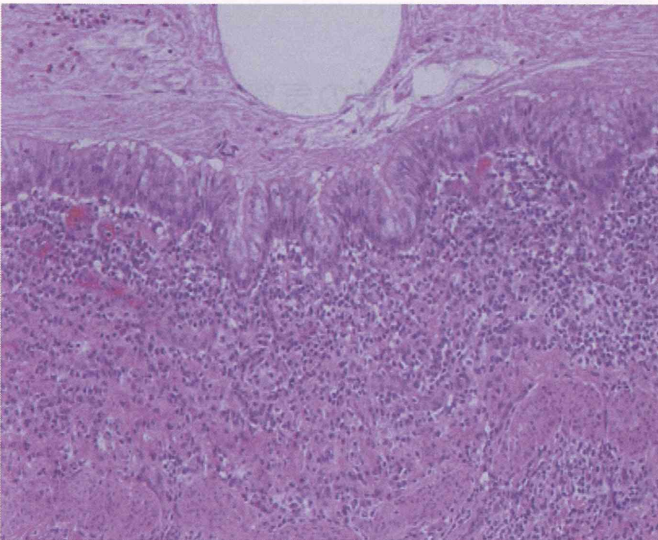
オス、70kg
肉眼所見：白色の結節部が散在。

シカ 肺



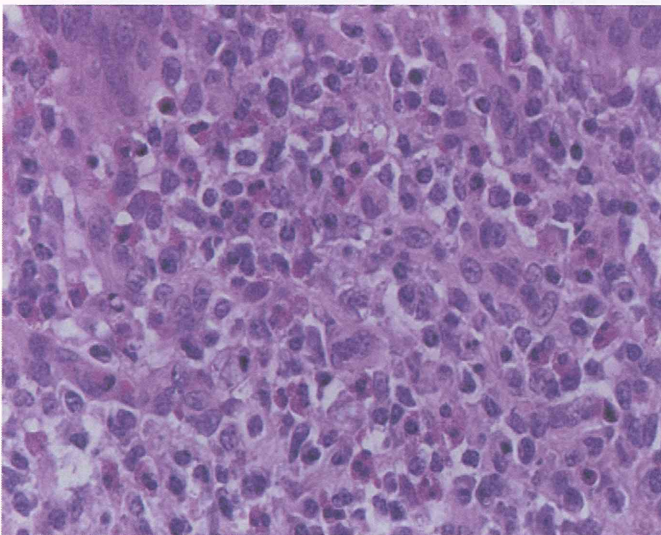
オス、55kg

組織所見：気管支付属リンパ濾胞の反応性増生あり。



オス、47kg

組織所見：気管支粘膜上皮で杯細胞が増数し粘液分泌亢進。

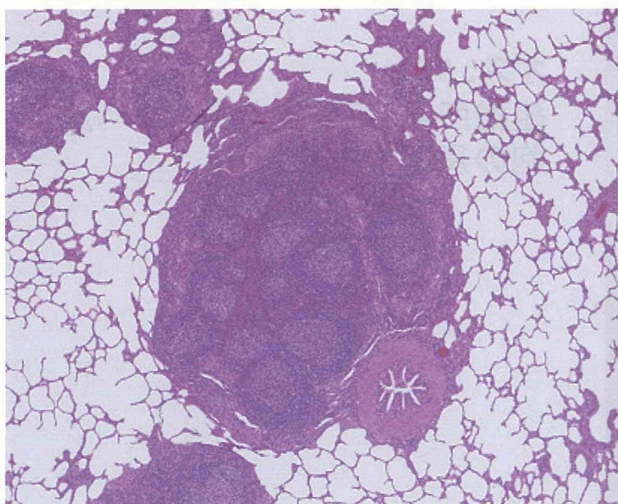


同上

気管支粘膜固有層には好酸球、リンパ球、形質細胞が中等度浸潤。

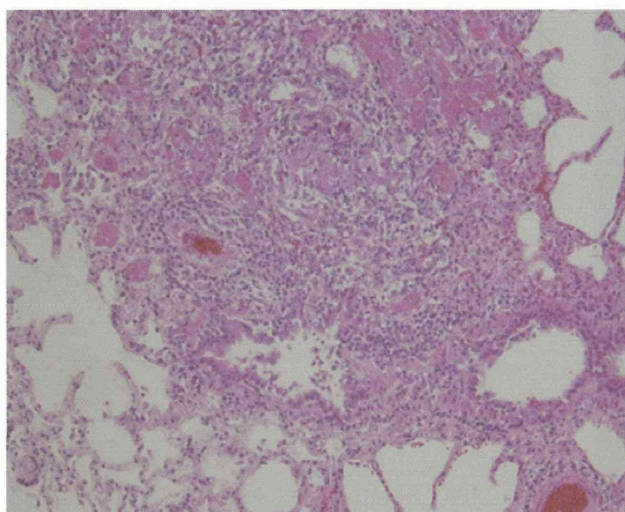
HE染色標本(以下組織所見は特に記載がない場合はHE染色標本を示す)

シカ 肺



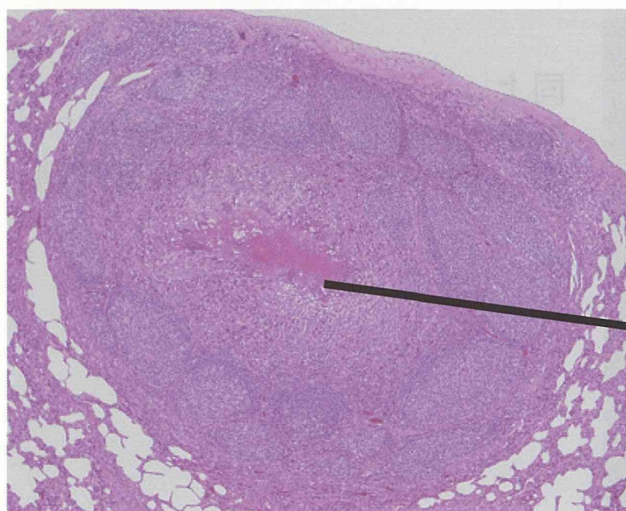
オス 32kg

組織所見：一部の細気管支周囲に胚中心を形成したリンパ濾胞の結節性過形成あり。

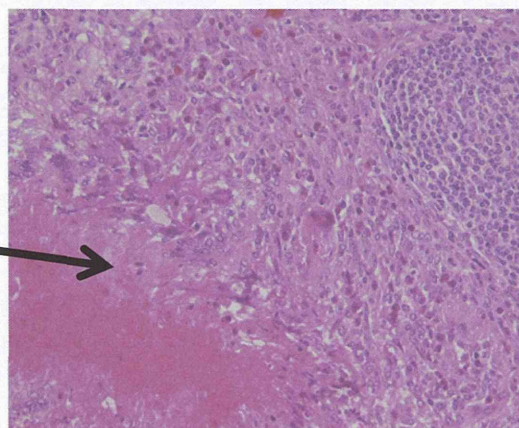


オス 60kg

組織所見：一部の気管支周囲に、リンパ球やマクロファージ、多核巨細胞、好酸球等の多彩な炎症細胞浸潤が散見され、器質化を伴うフィブリン析出巣も散在。



オス 32kg



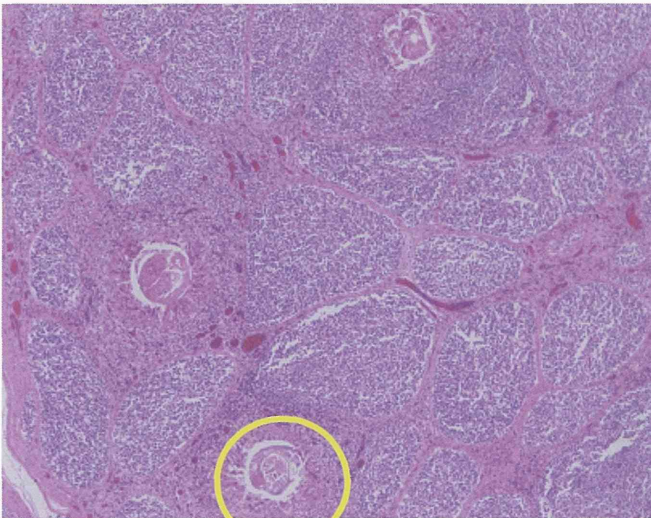
組織所見：中心部に好酸性の変性物質を含んだ、リンパ濾胞の結節性過形成を認め、周囲にはマクロファージや多核巨細胞、好酸球浸潤を伴う。

シカ 下顎リンパ節



メス 25kg

肉眼所見:リンパ節腫大、自壊。

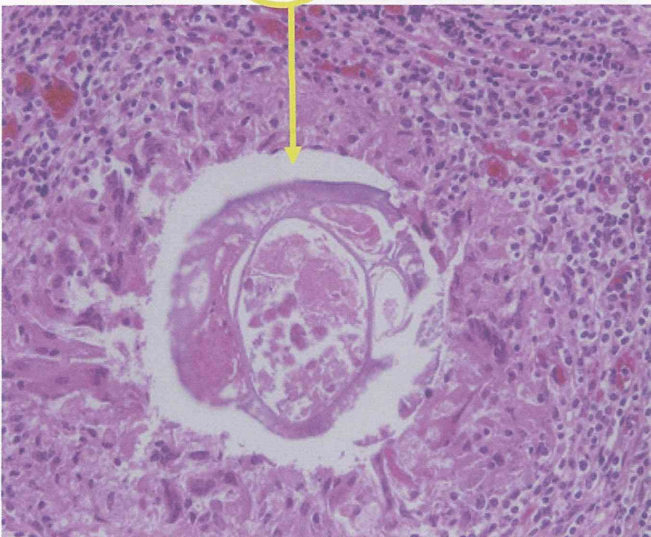


同上

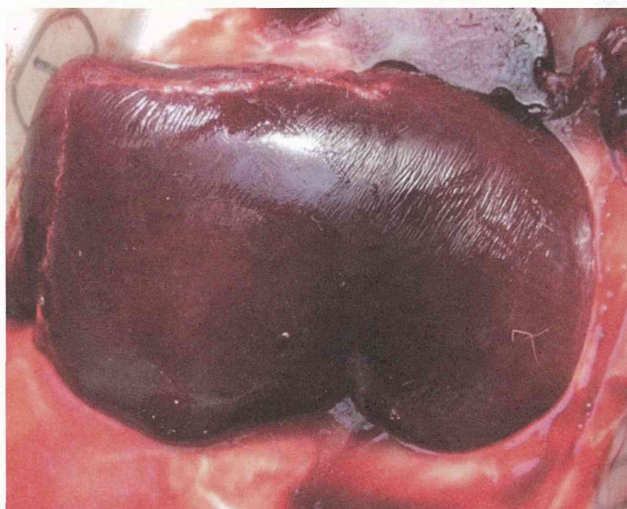
組織所見

・胚中心の拡大したリンパ濾胞が増数し副皮質領域も拡大著しい。

リンパ濾胞間の一部には、中心部に変性した虫体、周囲に異物巨細胞の集簇を伴う肉芽腫が散在(寄生虫寄生による反応性リンパ節炎)。



シカ 肝臓



オス、23.5kg
肉眼所見：著変なし。



メス、44kg
肉眼所見：著変なし。

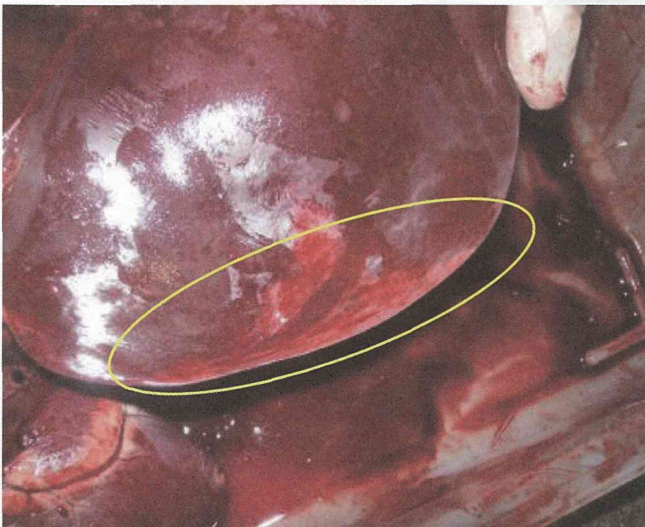


オス、38kg
肉眼所見：著変なし。

シカ 肝臓



オス、70kg
肉眼所見：水泡性変化。



オス、65kg
肉眼所見：肝に白色病変。



メス、推定40kg
肉眼所見：肝臓に白斑、肝蛭寄生。

